

教育委員長 年頭所感



教育委員長
面田 博子

皆様には、健やかに平成24年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年3月11日の東日本大震災は、私たちに大きな衝撃と悲しみをもたらしました。そして、それまでの生活の仕方や考え方を一旦立ち止まって振り返らざるを得なくなりました。だれもが思いを寄せた「絆」に象徴されるように、何が大切なのか、改めて突き付けられたような気がします。普通であったり前の生活、家族や身の回りの人達との何気ないかわりがいかに大事であるかを気付かされた年でありました。

子どもを取り巻く環境が大きく変化し、価値観の多様化が進む中、子どもたちにとって、普通であったり前であること、大切さが見えにくくなっています。また、人間関係の希薄化や実体験の不足から、

社会性や協調性、規範意識が育ちにくいことも指摘されています。元来、人間は、いろいろな人たちとかわつて生活し、社会をつくつてきました。人格形成においても、人とかかわることで成長すると言われます。

極端な事例ですが、90年前インドで狼に育てられた少女が発見され、人間社会に戻され養育されても人間としての言葉や行動を取ることができなかったという話がありました。これは、あつてはならない事件ですが、幼い頃の親や周りの人達とのかかわりが、人間としての成長に欠かせない大切なものだと、改めて認識した次第です。

今、学校では、各種の行事や集会活動はもとより、授業や部活などさまざまな集団活動で人との交流を行つています。昨年4月から本格実施している「葛飾教育の日」は、保護者や地域の方々との連携が図られ、交流のパイプが太くなつていきます。さらに、放課後子ども教室「わかチャレ」や、学校支援地域本部事業「学校地域応援団」は、地域の人たちが学校を支えてくださっています。そのような事業を通じて、子どもたちがさまざまな大人と出会い、新しい体験をする中で、豊かな人間性を育んでいます。そして、こうしたことの積み重ねが「確かな

絆」をつくり上げていくのだと思います。ご承知のように、新学習指導要領が小学校では平成23年度から実施され、中学校では24年度から実施されます。授業時間の増加、知識、技能の習得と生活に活用できる能力の育成、言語活動や道徳教育の充実、体力の向上などを通して「生きる力」を育むものです。

葛飾区教育振興ビジョンでは、「人間力」の育成を目指しており、まさに「生きる力」そのものです。そのビジョンに掲げている「確かな学力の定着」「豊かな心の育成」「健やかな体の成長」「良好な教育環境の整備」の4つの柱の施策を着実に推進し、学校教育の充実・向上に努めてまいります。

一方、生涯学習振興ビジョンは、「一人ひとりが輝き、『元気なかつしか』をつくる学びと交流による、＼ひとづくりにまちなづくり」を目指しています。区民大学、郷土と天文の博物館、図書館、地域スポーツクラブ、スポーツ施設などを活用して学びを広げ、人と人とのかわりを通じて、より豊かな地域や人間関係をづくりだしていきたいと考えております。

本年も区民の皆様のご協力をいただきながら全力で取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



教育長
山崎喜久雄



教育委員
秋本 則子



教育委員
佐藤 昭



教育委員
遠藤 勝男



教育委員長職務代理者
松本 實